

予算審査特別委員会 (討論の一部抜粋)

議案第 3 号 平成28年度大田原市一般会計予算について

反対

本澤 節子 議員

市税収入が99億円、借金返済が40億円、さらに国から借金をして、紫塚小学校、大田原小学校の建設に加え、市庁舎の復興では8階建ての市庁舎計画で出発しようとしていることです。危機的財政ではありませんか。公共事業費用を市民に届けなければ、市民所得をどこで増やせばいいのでしょうか。市民所得が上がらなければ市税収入は改善できません。財政計画は市民参画のガラス張りの運営が必要で十分討議が必要です。行政改革、組織改革もつながりと真の効率化が必要ですが不十分であります。

反対

秋山 幸子 議員

市の財政は、今後、高齢化による非課税世帯の増加、TPPによる農業生産と所得の減少などで税収の落ち込みが懸念され、扶助費の増大も避けて通れません。

限られた予算の中でも、子育て支援を目的とした「学校給食無料化」の継続は評価しますが、さらなる無駄のない住民本位の事業執行、公正で透明性のある事業の実施と市民に対する説明責任をしっかりと果たす事を強く求めます。

賛成

滝田 一郎 議員

平成28年度一般会計予算は、346億円で平成27年度の『未来先行投資型予算』に続く、過去最高額の積極的な予算となっています。大田原市の将来像「住む人が輝き 来る人がやすらぐ 幸せ度の高いまち」の実現を目指して、市民の「幸せ度」をより一層高める諸施策の積極的な推進を図るものであり、新大田原レインボープランの基本政策7項目に基づき、きめ細かな配慮がされています。平成28年度予算は、大田原市の飛躍と大田原市民の幸せ感の向上を目指した予算となっており、高く評価するところです。

賛成

高瀬 重嗣 議員

本予算は、厳しい財政状況のなか、市民の幸せ度を高める施策に重点的に予算を配分した、まさに市民の立場に立った市民の命と暮らしを守ることを最優先させた予算であり、市長の施政方針にありました「知恵と愛のある共同互敬」の基本理念の第一歩であると考えます。今後、ますます厳しさを増す行財政環境の中、市政執行にあたっては、行財政改革を積極的に行い財政の健全化を進め、限られた財源の効率的・効果的な運用により市民の負託に応えられるよう要望します。

議案第 4 号 平成28年度大田原市国民健康保険事業費特別会計予算について

反対

秋山 幸子 議員

大田原市国民健康保険特別会計予算は、歳入構成比20.7%を占める国保税の実態は、国保世帯11,645世帯のうち、滞納世帯数1,583世帯13.6%、資格証明発行315世帯、2.7%、県内で11位と深刻であり、1日も早い国保税の引き下げは待たなしの問題です。国に国庫負担の復元を働きかけるよう求めます。

賛成

大豆生田 春美 議員

国民健康保険税の収納率は、年々改善しているが、負担の公平の観点からも、収納強化に期待します。

特定健診や人間ドック等の保険事業の充実など、医療費の適正化を図るための努力が伺えます。わが国の国民保険制度の最後の砦としての役割を担う国民健康保険事業ですので、今後も健全財政の維持に努められるよう要望します。

議案第 7 号 平成28年度大田原市介護保険特別会計予算について

反対

秋山 幸子 議員

国の介護保険制度を踏襲して策定された「第6期介護保険事業計画」は2年目に当たり、歳入・歳出ともサービスの抑制と負担増を被保険者に求めるものと認識します。利用料負担の軽減、介護労働者の現場の声を聞き、処遇改善で介護の質の向上を求め本議案に反対します。

賛成

大豆生田 春美 議員

本市の要介護認定者数は、県内で第1位という状況にあります。このため介護保険事業における保険給付費総額は、確実に伸びておりますが、各種介護サービス給付費に適切な予算措置がなされており、本市の介護サービス利用実績に沿った妥当な予算であると評価いたします。今後も引き続き、介護サービスの質の向上を目指すとともに、介護保険料の収納率向上に努められるよう要望します。

議案第 9 号 平成28年度大田原市後期高齢者医療特別会計予算について

反対

秋山 幸子 議員

当年度は2年毎の見直しの年に当たるものの、広域連合は保険料の据え置きを決定し、本予算はそれを見込んだ歳入・歳出の規模になっておりますが、この予算から被保険者に係る医療費の総額も、県内における医療水準も読み取る事が出来ない制度上の欠陥があります。高齢者の尊厳と命を護る為にも、後期高齢者医療制度を廃止する事を指摘します。

賛成

大豆生田 春美 議員

保険料改定がありますが、今後も現在の保険料率で据え置かれる見込みとのことですので、高齢者が安心して生活できるように、後期高齢者医療制度の更なる充実を要望いたします。